

授業概要

1ドル=110円の円高。為替レートは天気予報のように、毎日テレビで伝えられる。この為替レートも、国際経済の重要なテーマのひとつである。前半は、国際経済の基礎(歴史、制度、理論)、後半は、現実問題を通じて国際経済の包括的な理解を目指す。ビデオなども活用したい。

授業計画

- | | |
|--------------------|-----------------------------|
| 1 - 国際経済学の位置づけと意義 | 2 - 国際経済の歴史の変遷 |
| 3 - 国際経済取引と国際収支 | 4 - 国際貿易と国際分業 |
| 5 - 国際投資と技術移転 | 6 - 外国為替取引と為替レート |
| 7 - 国際金融市場 | 8 - 経済統合 |
| 9 - WTOとIMF | 10 - アメリカ経済 - 自動車産業と映画産業中心に |
| 11 - 中国の経済発展と政治の役割 | 12 - 東南アジアの経済発展とアジア通貨危機 |
| 13 - なぜ途上国は貧しいのか | 14 - 日本経済と国際経済 |
| 15 - 論述試験 | |

成績評価の方法

レポート(30%)、授業貢献(20%)、試験(50%)。

レポートは、早坂忠(1977)『ケインズ 文明の可能性を求めて』中公新書の感想文で、1月9日までに教務課へ提出すること。集中講義で時間が限られるため、事前に課題図書への感想文を求めた。ケインズ(1883-1946年)は著名な英国の経済学者だ。「雇用・利子および貨幣の一般理論」で知られる。また彼の構想がIMFや世界銀行という戦後の国際経済に重要な国際機関の創設につながっている。ケインズは大蔵省勤務、投資家などと多彩な経歴を持つ。ケインズの生きた時代、ケインズの経歴など関心をもった点を要約し、その要約に対して、自分の考え、意見、疑問などを加える。感想文の内容にあった自分なりに工夫した題も付ける。感想文は1000~1200字でワープロ(A4横書き、1行40字)を基本とするが、手書き(原稿用紙)も認める。授業貢献は初日の授業で説明する。なお、私語、メールを含む携帯電話の使用は減点対象とする。試験は論述形式、ノート、参考文献などすべて持込を許可、詳細は講義の中で説明する。

教科書

特定の教科書は使用しない。パワーポイントやレジюмеで説明する。

参考文献

1. 伊藤元重(1996)『ゼミナール国際経済入門』日本経済新聞社
データはやや古い、わかりやすいテキスト
2. 池本清(1997)『テキストブック国際経済』有斐閣ブックス
さらに詳しいテキスト
3. 日本銀行(2000)『入門国際収支』東洋経済新報社
国際経済を学ぶ上でも、実務上でも重要な国際収支の解説書。
4. 上川孝夫・藤田誠一・向壽一(2003)『現代国際金融論(新版)』有斐閣ブックス
国際経済の中で、金融面に興味がある人向けのテキスト
5. 平川均・石川幸一(2003)『新・東アジア経済論(改訂版)』ミネルヴァ書房
アジア経済に関心がある人のテキスト

履修上の注意等

レポートの質問などは、atsuji_ohara@ybb.ne.jpへ。
講師の略歴などは<http://www1.ttcn.ne.jp/~asia/sun.htm>を参照。